

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	ひろしまオペラ・音楽推進委員会	
施 設 名	アステールプラザ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	15,902	(千円)
	公 演 事 業	14,041 (千円)
	人 材 養 成 事 業	834 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	1,027 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オペラ公演「ドン・ジョヴァンニ」	令和2年9月26日、27日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	1,500
		大ホール		実績値	—※
2	Hiroshima Happy New Ear	令和2年4月19日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	120
		オーケストラ等練習場		実績値	—※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	人材養成事業	①令和2年10月～3年3月※ ②令和2年7月25日、26日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により事業の縮小と中止 ①「合唱団の育成・運営」合唱指導/寺沢希、演技指導/池澤嘉信ほか(縮小) ②「子供オペラワークショップ」(中止)	目標値	入場者 380・参加者 60
		①諸室 ②多目的スタジオ		実績値	—※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	普及・啓発事業	①令和2年6月27日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により事業の中止と無観客でのライブ配信 ①オペラ「ヘンゼルとグレーテル」(中止) ②「ファミリーコンサート」指揮/藤野浩一、演奏/広島交響楽団(無観客ライブ配信)	目標値	入場者 1,550
		②令和2年7月22日		実績値	視聴者数 4,189※
		①中ホール			
		②大ホール			

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

広島市は、中国・四国地方の中心都市として経済・文化の牽引役を担っており、世界史上初めて核兵器（原子爆弾）で爆撃された都市として、世界的に高い知名度を有している。こうしたことから、都市像に「国際平和文化都市」を掲げ、世界の国・人との連帯による世界恒久平和の実現、豊かな文化と人間性を育む都市づくり、文化芸術をはじめとした様々な分野で活発な国際交流や国際協力を推進し、世界に開かれた活力ある都市を目指しており、当劇場はこれの実現を目指す文化芸術面での中心的な役割を發揮することが使命となっている。

このため、『文化芸術を創造し、感動と希望をもたらす地域文化の拠点として、個性と魅力ある都市文化を形成する創造劇場』を目標に掲げ、助成事業については、キャストの募集・練習・公演までを劇場で行う創造型のプロデュース公演であるオペラ事業を中心に事業を構成し、公演事業・人材養成事業・普及啓発事業それぞれ、目標達成に向けて取り組む予定であったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、次のとおり事業中止や規模縮小となり当初の計画から大きく変更が生じた。

■公演事業

令和2年9月26日（土）、27日（日）に公演を計画していたオペラ公演「ドン・ジョヴァンニ」は、緊急事態宣言の発令により、4月26日（日）のオーディションが行えず、キャストイングができないため中止となり、令和2年4月19日（日）に公演を計画していた現代音楽公演「クアルテット ベルリン・トウキョウ」は、ドイツ在住の出演者が渡航制限により公演日に合わせて入国できず中止となった。

■人材育成事業

年間を通じて実施を予定していた合唱団の育成・運営は、活動を10月から3月と縮小し、「クリスマスコンサート」と「合唱団演奏会」を中止し、令和2年7月25日（土）、26日（日）に予定していた「子どもオペラワークショップ」は、感染拡大を考慮して中止となった。

■普及・啓発事業

令和2年6月27日（土）に予定していたオペラ「ヘンゼルとグレーテル」は公演に向けて練習ができないため中止となり、令和2年7月22日（水）の「ファミリーコンサート」は無観客公演でのライブ配信となった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

当劇場のプロデュース公演とこれに附随するワークショップ等では、国内で活躍するトップクラスの指導者を起用することから、広島市内在住者のみならず近隣都市からも多数の参加者があり、近隣都市圏を含めた文化発展の牽引役を担っている。

また、豊かな文化を育む高レベルの文化創造活動が行えることは、日常の生活に喜びを感じることができる平和な都市の証であることを発信している。

当劇場の文化芸術活動は、地域における文化芸術活動のフラッグシップとなり、芸術家等の目標として地域の文化発展に大きく寄与している。特に現代音楽公演では、広島市出身で世界的に活躍する作曲家である細川俊夫氏のプロデュースにより世界的な演奏家を招へいしての演奏会を継続して実施し、世界最先端で世界水準の演奏会を提供している。

以上のとおり、助成に値する意義が継続して認められるものである。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標の達成に向け、公演・人材養成・普及事業それぞれ指標を設定し、事業に取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止や規模の縮小となった。このような状況の中ではあるが、ミッションを達成すべく実施可能な範囲の事業を目標に近づけるよう取り組んだ。

■公演事業

<オペラ公演>

(新型コロナウイルス感染症により中止)

<Hiroshima Happy New Ear>

(新型コロナウイルス感染症により中止)

■人材育成事業

<合唱団の運営・育成>

オペラ公演の専属合唱団では、年間活動の計画が10月から3月までと半分になり、稽古時はフェイスマスクとマスク装着などの様々な制約がありながらも、芸術創造活動の推進を目指し専門的で優れた才能を持つ人材の育成環境を整備・充実させ、優れた指導者の起用から運営まで一体的な運営体制により、高度なレベルでの学ぶ場を安定して供給することができた。成果発表としての場を提供することができなく、合唱団員の満足度の値は低調であったが、他のコンサートなどが軒並み中止となる中であっても、人材育成を継続して行えたことで、地域に根ざした創造活動への取り組みに積極的な働きかけを行うことができた。

<子どもオペラワークショップ>

(新型コロナウイルス感染症により中止)

■普及・啓発事業

<オペラ「ヘンゼルとグレーテル」>

(新型コロナウイルス感染症により中止)

<ファミリーコンサート>

コロナ禍で様々な制約がある中、乳幼児期の子どもと、子育て中の親子のみならず多くの方々に対して芸術文化に触れる機会を配信という形であったが提供できた。本公演開催を通して、社会へ開かれた劇場としてアステールプラザの文化拠点性を高め、将来的な市民の文化活動への参画に寄与できた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、次のとおり事業中止や規模縮小となり当初の計画から大きく変更が生じた。

■公演事業

令和2年9月26日(土)、27日(日)に公演を計画していたオペラ公演「ドン・ジョヴァンニ」は、緊急事態宣言の発生により、4月26日(日)のオーディションが行えず、キャストイングができないため中止となり、令和2年4月19日(日)に公演を計画していた現代音楽公演「クアルテット ベルリン・トウキョウ」は、ドイツ在住の出演者が渡航制限により公演日に合わせて入国できず中止となった。いずれも令和3年度に延期する。

■人材養成事業

子どもオペラワークショップは、通常は早い段階で定員を満たす人気事業であるが、開催の予定時期を目前に小学校で新型コロナウイルス感染者が出たため中止となり、合唱団の運営・育成は、年間を通して原則週1回の練習を行い、オペラ公演への参加やクリスマスコンサート、発表公演と公演を目標に研鑽を積むシステムだが、新型コロナウイルス感染症の影響で年間活動の計画が10月から3月までと半分になり、予定していた公演への参加や自主公演も中止と公演活動が全くできなかった。

■普及・啓発事業

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」は、公演の練習に向けた時期に練習を行うことができず、やむなく中止となったが、ファミリーコンサートは、事業の準備段階で新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止等の可能性を考慮し、早い段階で無観客でのライブ配信を行うことを決めて準備を進め実施した。

ライブ配信となったことで、目標値が視聴者となり、有人であれば1,000の座席数が、4,189人の視聴者に提供でき、数字上効率性の高いものとなった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

広島市の文化拠点として位置付けられるためには、文化を創造発展させ魅力的な個性を発揮する活動の「場」、そして市民文化の創造と発展の象徴のシンボルとして、市民の誇りとなる文化芸術の「創造活動」のそれぞれが効果的に行われる必要がある。

当劇場の設備は、大・中のホールの他に上演形式にとらわれずに使用できる多目的スタジオ、そして中四国で唯一のプロオーケストラである広島交響楽団の専用練習場ではあるが、使用されない時には室内楽の演奏会の他市民オーケストラや合唱の練習などとしても利用できるオーケストラ等練習場といった上演会場を有するだけでなく、実演芸術の創造活動に欠かせない練習室や音楽室といった練習会場機能を併せ持ち、これらを最大限活用しての創造型事業を中軸に取り組んでいる。

事業体系としては「音楽」「演劇」「ダンス」を取り上げ、現代音楽やコンテンポラリーダンスなど新しい文化の創造にも挑戦し、広島文化シンボルとして相応しい事業を展開している。取り組みにおける特徴として《創造》《育成》《提供》《普及》の4点に分類することができる。具体的には《創造》は優れた演出家等のスタッフによる高水準の「プロデュース公演」をオペラ、演劇、バレエ、コンテンポラリーダンスにおいて制作・公演。《育成》は、オペラ、演劇、バレエ、コンテンポラリーダンスのワークショップを開催。《提供》は演劇、ダンス、オペラ、クラシック音楽、伝統芸能等の公演を、共催も含めて多数の鑑賞機会を市民へ提供。《普及》は文化芸術の普及・啓発を行うため、オペラ出前コンサートやオペラコンサートの開催。

これら事業において、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により殆どの事業が実施できなかったが、助成を受けた事業実績では、オペラ公演で2017年から2019年の3年間でモーツァルトシリーズを制作・公演し、「ブッファ」「セリア」「ジングシュピール」と様々な形態の作品を提供した。また、2018年に度上演した「イドメネオ」は第16回三菱UFJ信託音楽賞「奨励賞」を受賞し、地域発信のオペラとして高い評価を受けた。

同じく助成を受けた現代音楽の「Hiroshima Happy New Ear」では、平成19年度から日本人作曲家として現在最も世界的に活躍している広島市出身の現代音楽作曲家、細川俊夫氏を音楽監督に迎えた小規模の演奏会を年2回程程度のペースで開催しており、このシリーズの特別企画で取り組んだ2020年の「松風」は、佐川吉男音楽賞「奨励賞」を受賞する高水準の公演を制作した。

いずれも、指導者が広島へ滞在し、劇場でじっくり制作する手法で、文化拠点としての機能を十分発揮した創造性の高い公演を発信している。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

広島市の文化拠点として位置付けられるためには、文化を創造発展させ魅力的な個性を発揮する活動の「場」、そして市民文化の創造と発展の象徴のシンボルとして、市民の誇りとなる文化芸術の「創造活動」のそれぞれが効果的に行われるよう、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮するために、《創造》《育成》《提供》《普及》の4点をポイントに取り組み、特に指導者が広島へ滞在し劇場でじっくり制作する「プロデュース公演」では、当劇場を拠点として地域の文化芸術公演におけるフラッグシップとなり、牽引するに相応しいレベルの高い公演を制作し、文化拠点としての機能を十分発揮した創造性の高い公演を発信している。

また、助成対象事業であるオペラとクラシック・現代音楽においては、マスコミや行政、音楽関係者からなる委員会を組織し、事務局をアステールプラザに置いて運営しており、地域団体のニーズと要求に応じており、地域ニーズを踏まえた実演芸術の振興と地域文化の発展に寄与しているものとする。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当劇場の運営に係る主な業務は、「使用許可」（諸室の貸出、受付、利用案内等）、「施設・設備の維持管理」（駐車場、施設・設備の保守、設備機器の運転操作、警備、清掃等）、「広報」（施設案内パンフレット作成、ホームページの運営等）、「ホール管理」（利用打合せ、舞台設備の操作・管理等）、「事業の実施」（オペラ、クラシック・現代音楽、演劇、バレエ、文化情報の収集等）と多岐にわたっており、「管理担当」と「事業担当」の2担当制で相互に協力しあいながらあたっている。

<人材面>

これらの業務を行うため、劇場運営の経験豊富な専門知識のある職員を適材適所に必要人数配置し、サービスの維持・向上を図り、12時間の開館時間内をローテーション体制で運営しているが、これを継続して安定的に遂行するため、職員の能力向上はもとより、職員一人ひとりの勤務意欲と能力を一層向上させるなど、人的資源を最大限活用していくシステム作りが必要なため、「接客能力の向上」、「管理運営能力の向上」、「舞台技術能力の向上」、「アートマネジメント能力の向上」といった視点を持って運営に当たることのできる人材の育成を目指している。また、より効果を高めるために職員が個々に自己目標を設定して自身の能力開発・向上を図り、管理者が職員の目標の達成状況を適切に評価し、適材適所の人事管理を行うことで、組織全体の業務能力とモチベーションの向上を図るよう取り組んでいる。

<財務面>

劇場運営に当たっては、財源の確保が重要課題である。このため、利用者のニーズを踏まえ、利用に関する情報の提供やニーズに即したサービスを行い、多くの方々に当劇場を地域の文化拠点施設として利用していただき、会場利用料や鑑賞料収入を確保し、安定した劇場運営と事業運営を行うため、次のサービスに取り組むなど収入の確保を図っている。

- ・ホール利用について、キャンセルが生じた場合は、ホームページでキャンセル情報を周知。
- ・ホールで、仕込み・リハーサル・本番と連続して利用しなければ公演が成立しない利用については、連続利用の優先予約制度を導入。
- ・大規模事業の優先利用の制度を導入し、大規模大会の誘致。
- ・ホールの空きを有効利用するため、2か月前など一定の期間を経過した場合は割引で提供。

<施設面>

劇場を安心・安全に提供することは管理者としての重要な使命であり、主に次のとおり取り組んでいる。

- ・条例や規則に沿って、全ての利用者へ平等で公平な利用を提供。
- ・節電、節水等省エネに努め、環境に優しい運営。
- ・老朽化に伴うトラブルの発生を未然に防ぐよう、専門業者や職員による点検等の実施。
- ・防火・防災に関するマニュアル整備、消防設備の点検、危機管理体制の構築、消防訓練の実施。
- ・個人情報の適正な管理や広島市暴力団排除条例等施設運営に必要な各種法令を遵守。

<ネットワーク>

オペラや演劇などの事業を通じて、地域の文化団体のみならず、他都市のオペラ団体や劇場と幅広いネットワークを構築している。今後の主な計画は、広島市の姉妹都市である韓国大邱広域市との芸術交流の充実である。

また、近隣施設と事業連携や運営協力など良好な相互関係を築き、地域の一員として社会的責任を担うなど適正な運営を行っている。